

選ばれた人が
一年間村の畜産神をご奉仕するね…
村の繁栄のため
仕方のない事です…

落ち込むなよ
一年とか意外と早いよ
そんなわけのわからない神なんぞ
負けませんから
私の事…忘れないでね

うん…
約束だよ…
この一年間僕も頑張って勉強し
もっと新しい技術を持ち込めば
こんな神様もいらなはずだ…!

そうだ…あの悪神を倒すんだ…!

ふふ…まいったね
泣きながらそんなかっこいい
セリフ言うのは
心配すべきかどうか
分からなくなつたね



一年後

待って！
畜産神の巫女になるとは
どういうことだ…?!
それとあなたの髪…と体は…

はあ…貴様か…
神殿はよそ者
立ち入り禁止だぞ
何考えてんの…

なーに、聞いた通りだ
我は巫女として永遠に
畜産神様をご奉仕します
だからもう邪魔しないで

でも…そうだ！
僕はもう国内一流の大学に
受かりました
これで畜産神を倒せるぞ
村は救えるんだ…

はあ…？
誰がそんな意味わからん事を頼んだ？
なぜ村は新しい技術を
必要としないのかは知ってる？
神様の恵みさえあれば十分だ
そんな面倒なことはいらん

貴様の私欲でそんなことをしたら
皆今の繁栄は壊されてしまう
…はあ、まさか我のいない間
精神はじつとも成長していないなんて
本当に呆れた…

分かったらさっさと去るがいい
これからはご奉仕の時間だ
神様は貧弱な凡人と違い
欲求は凄まじいからな…

…それとも見てあげた方が
良いのか？
直ぐ諦めるかもしれんな…

更に一年後

…寮はよそ者立ち入り
禁止だぞ
何考えてんの？

あ…

あの…久しぶりです…

…み…村はどうした？

…その…つい最近、神様が…
飽きたって…言われました…
そして新しい巫女を立ちました…


今の巫女は自分の立場を強めるため
私が神様に捨てられたと皆にバシて…
今の私…村で忌み嫌われていで…
家族まで…

…本当にどこまでも
腐った連中だな

…うん…

あの…すまない…かつて
結構ひどいことをした…
ですが…

ほんの少し…ここに…
居させてくれませんか…



言うのも恥ずかしいが
こいう状況は想像済みだ
何度も一番惨いやり方で拒んで
前へ進むモチベーとしてね…
ですが、本当に目の前に現れると…

あつ…
おはようございます

早いわね
以前と全然違うね
朝食用意したわ
一緒に食べましょう？

あ…どうも…

ごめん、勝手に鍋を使って…
…あの…これは…ルーチン…です

そう…大変だな…
体もう戻らないのか？
何となく髪の色が戻っているが…

うん…髪が白くなったのは
神性の影響です
多分あの神のそばから離れて
影響も段々消えていくでしょう…

体の方は
物理的な変化なので
戻れないかな

…処分するのも勿体ないし
よろしければ
朝食と一緒にどうぞ…

……へえ?!

はあ…はあ…
…君とのセックスって…
いつぶりでしょうね…

…すまない、私個人の要求なのに
手間を掛けしまったな…
畜産神の力は動物の繁殖力に影響する
奉仕する間一日何回もしくちやいけない
私の体も欲情になりやすいの…

こんな汚い体に抱いて貰って…
しかも他人に何度も使われているのに…
ごめんね…

そんなことない！
こんな事で謝るのおかしいだろ…！
僕こそ…最初から君を連れて
逃げれば良かったのに…
ごめんなさい…待たせちゃって…

外見がどんなに変わっても、
僕は君が好きです！

君が帰ってきた！
それが一番大事だ！
変態神も腐敗した村も、
全部死ねばいい！

ふふ…
言葉を口に出すのが勇気
づけれるようになったね。

でも相変わらず優しい…
ありがとう…
そうでしたら
もっと抱いてくれる？

ねえ…もう直ぐ卒業するんでしょう？
新しい技術を村へ持って帰って
神様の支配から解放させるって事
まだ覚えてる？

ん…もちろん覚えてるよ…
けどここ最近が平穩過ぎて、
この生活を変えるのが怖い…

うん…
けど、実は…
巫女やってる間分かったんだ
村の中で私たちがみたいな人大勢いる
不満の声ももちろん…

もし私たち帰って
変化のきっかけになる
かもしれない

…でしたら私たちがみたいな人も
救えるんじゃないかな

…そうだね
そろそろ
向き合っべきだね。

大学のキャンパス内は
こんな感じが、
もし神様が私を選ばなければ
私もここで勉強してたかな…

そういえば…
一緒に同じ大学に行こうて
約束してたね…

…やっぱり結構見られるね

こんな体つきだし…

都会と田舎の本質は一緒だよ、
皆自分と違った事を異端視する。
あんまり気にしないでいいよ。

あらあら、先輩じゃないですか、お久しぶりですね。

こちらの方は：先輩に捨てられて村から逃げた負け犬兄さんじゃないですか。

アハハハハ、捨てられた二人どうしが一緒にいるなんて、見ものです。

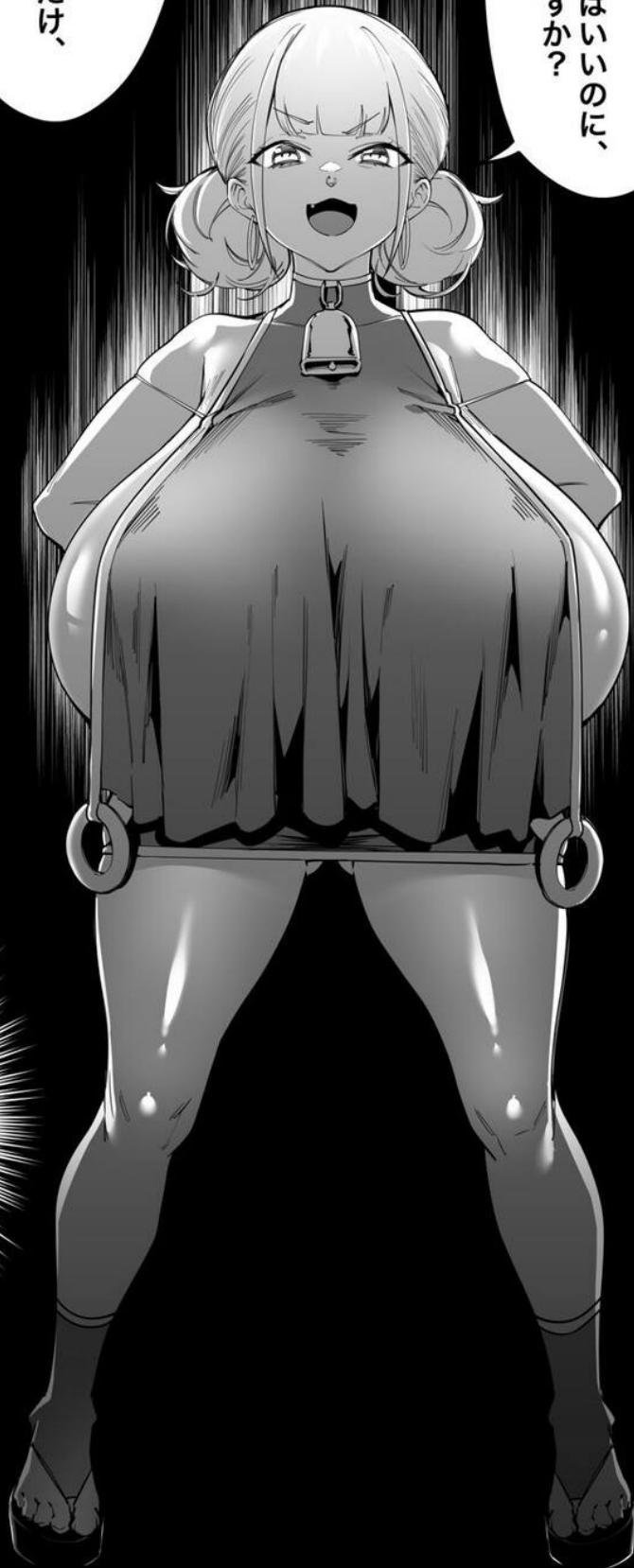
それで？ お互いの村の外で傷の舐め合いしてればいいのに、何で帰って来たのですか？

：特に理由はないよ、外で習った事で家業の手伝いに帰って来ただけ、荒事を立てる気はないよ。

ここも一応私達の故郷だし、帰って来ても可笑しく無いでしょう。

ふん…、それもそうです。

そうだ…、最初から正面衝突は望んで無い。元の計画通り、一歩一歩村が神様への依存を減少する方針で動くぞ…。



このアホを騙すのに
その理由で行けるかもしれないが…
本当の事を申せ

!?

さ…先程申した通り、
私達は家業の手伝いの為に
帰って参りました。
特に荒事を立てるつもりは—

うぬには聞いておらん

我は後ろに居る
前任巫女に聞いておる



まあ：
帰って来たて事は
そういう事だな：

……？





か…神様!?

重たい…
立てられません…



しめんね...

大丈夫、
これはただつけられた相手を
服従させる首輪だから…

…結局俺は
ずっと騙されてたのか…

んん、違うよ。
村を離れて貴方に会ってから
何一つ騙すような事はしてないよ。

…どういう事だ？

…

神様にご奉祀してる時は
無上の愉悦を感じれる、
あれは凡人から貰えない…
でも神様から頂けない物がある、

それは『愛』、
最初は私を忘れさせる為に
酷い言葉で別れたけど…
貴方への愛は変わらず、
貴方を諦めれなくて…

だから神様をお願いしたの、
貴方を連れて帰りたい。
そしたら了承してくれたけど、
賭け事を交わす事になったわ。

神様もちょうど私に飽きたと言つて、
私がない間別の代役者を立てたの、
次の方のご奉祀が私より良かったら
帰れ無いと職務怠慢の罰を課せられるわ。

今後輩が受けてる状況が
私に代わってる
かもしれなかったわ…

そしてあのかわいい後輩が
権力の為に村人を煽って、
私を排除しに来たわ。

でもその行動で
今回は帰れると確信した。

だって自分の利益の為に
神様からあたら得た権力で
やりたい放題してる方が
誠心誠意神様を
ご奉仕するわけないわ…

…村には種畜が結構いましたね、
あなたはこれから種畜を
ご奉仕してください…
でも今の体じゃ合わないね…

そうだ…
神様に頼んでもっとおっぱいを
増やしましょう。
これでもっと家畜に似てくるわ。
あと動物の射精で短いから、
貴方の体をもっと感じれる体質に
改造しましょう…

では：私達元々立ててた
計画を実行して、
新しい技術を導入で
村に変革をもたらしましょう。

…なんだと？

あなたの最大の誤解は
新旧の技術が共存出来ないと思ってる事。
科学は復讐の道具、
村への革新は手段としか思っていない、あなた。
憎しみで視野が狭くなったのね、可哀想に…

新しい技術と神様の力で
相乗効果を発揮する事こそが
真の進歩。

神様の負担が減ったら、
巫女の仕事も減り、
あなたと過ごす時間も増えるわ…
これこそ皆が幸せになる
方法、そう思わない？

もし後で私が奉仕してる時に
我慢出来て興奮しなかったら、
貴方の勝ち、
貴方を解放してここから
離れる事を許すわ…

もし貴方が勃起して、
限界まで固くなった瞬間、
貴方は射精する…
射精は今有る精子が
涸れるまで続くわ…

その快感は普段のとは違う…
貴方の体はその快感を刻み込まれる。
そして今後貴方は私と神様が
まぐわってる時しか興奮できなくなる…
それでまた勃起して…
また涸れるまで射精するわ…

そうならば
もう普通の性行為は出来なくなる…

まあ…その時貴方は既に
必要としないでしょう…
どうせ私もあなたから体の満足
頂く必要ないし、
あなたはご奉仕を見てるだけで
無上の快感を得られるわ…

ふふふ…良いと思わない？



やっと分かった：
多分彼女の心は最初の一年でとっくに
壊れてしまった。

かつて二回助ける機会があった、
一回目は何もしなかった、
二回目は彼女を一人にして、逃げてしまった。

やっと自分に力が付いて助けられると思ったら、
既に手遅れだった：

今、彼女が求めているのはこの壊れた世界で
一緒に壊れて居てくれる人。



あら…!!
まさか首輪の束縛に
抵抗出来るなんて…



フフフ…
本当に…遅くなったのね…

これも一つの選択でしょう…
私にこの結末を見せて頂戴…!



え…？

…

あなたがしたいようにすればいいよ。
ごめんね…
ずっと狡い方法しか出せなくて、
結果的に何の役にも立てなくて。
今回は最後まで一緒にいるよ。

なんだ…
遅くなっただけじゃなくて
他人を思いやれるように
なったんだ。

…ありがとう。

安心して…最初からあなたを
傷ついたり、復讐したいなんて
考えてないから。

ん…分かってるよ。

私に任せて。

これからも楽しく過ごせるわ…♥

あ…おはよう。

…もう早くもないか、
昨日はお疲れ。

髪の毛…

そう、朝起きて染めたんだ！
えへへ…やっぱりこっちの方が
見慣れてるよね？

横髪は少し白のままだけどね






へ...?
で...出っちゃったの...?

あ...
う...

そ...そうだよ...
あなたの刺激が強すぎるからだよ...
ク...思ったより効果が強いな...
う...



フフフ…可哀そうで…
かわいい…

これからもっと淫らなお遊びが
出来るかもね…♥

被選中的人要前去
侍奉村子的畜產神一年的時間，
為了村子的繁榮，
這也是無可奈何的……

別難過了，
一年其實很快就過去了，
我不會輸給那種莫名其妙的神的，
所以你也別忘記我喔。

嗯……
約定好了喔……
這一年我也會努力考好學校，
為了以後為村子引進先進的技術，
到時候就不需要依賴這種神明了……！

對……我要打到那種惡神……！

呵呵……傷腦筋呢，
一邊哭著一邊講這種帥氣的話，
都不知道是要擔心還是放心了。





一年後

等等！
要成為畜產神的巫女什麼的
是怎麼回事…!?
還有妳的頭髮…跟身體…

沒什麼，就像你聽說的那樣。
我要成為巫女永遠侍奉神明大人，
所以以後不要再來打擾我們了。

哈啊…是你啊…
神殿可是外人禁入的，
到底在想什麼…

可是…對了！
我已經考上國內一流的大學了，
這樣距離打倒畜產神
拯救村子又更進一步了…

蛤…?
誰拜託你做這種莫名其妙的事情了?
你知道為什麼村子都不需要進步嗎?
因為只要接受神的恩惠，
就不用做那種麻煩的事情了。

要是你為了私慾做了這種事情，
可是會破壞大家目前繁榮的現況的。
：唉，想不到我不在的時間
並沒有讓你的心智稍微成長一點，
還是這麼的幼稚…

聽懂的話就快點離開吧。
接下來是侍奉的時間了。
神明跟貧弱的凡人不一樣，
需求可是很驚人的…

……還是說要讓你見識一下
侍奉的景象呢?
這樣說不定會更容易死心吧…



又一年後

…宿舍是外人禁入的，
在想什麼呢？

呢…

那個…好久不見了…

…巫…村子的事情呢？

…嗯…不久前，神明突然…
說…他玩膩了…
然後選拔了新的巫女…

現任的巫女為了鞏固地位，
大肆渲染我被神明捨棄的事情…
所以我在村裡越發不受待見…
連家人都…

…這些人還是一樣的迂腐呢。

…嗯…

那個…很抱歉…我曾經
對你做了殘酷的事情…
但是…

能不能…讓我在這裡…
稍微待一下呢…？



說起來丟臉，
但我並不是沒有想像過這種情境，
也想過很多次要怎麼無情地拒絕她。
我把這種情緒當作前進的動力。
但是：當她真的再次出現在面前的時候：

啊……早安。

起得真早呢！
跟以前完全不一樣呢。
我準備了早餐，
一起吃吧？

啊……謝謝……

抱歉，擅自借用了你的鍋子……
……那個……這是……例行公事……

啊，沒關係。
……身體，不會恢復嗎？
我看你的頭髮有慢慢在變回黑色……

嗯……頭髮變白是神性的體現，
大概是因為離開了那個神，
神力的影響慢慢消失了吧……

而身體的改變是
物理上的變化，
是永久的。

……倒掉也是浪費，
不介意的話，
要不要拿來配早餐呢？

……欸!?





哈啊...哈啊...
...我們上次做...
是多久以前的事了...呢...

...抱歉，明明是我個人的需求，
卻麻煩你來幫我處理...
畜產神的力量能夠影響動物的繁殖的能力，
在侍奉的那段時間一天都要跟他做上好幾次，
我的身體也變得容易累積慾望了...

讓你抱了如此不堪的身體...
而且還是被其他人使用過無數次的...
對不起啊...

才沒有這種事！
為了這種事情道歉也太奇怪了...！
我才是...當初就應該直接帶著妳逃走的...
對不起...讓妳等了這麼久...

無論妳的外表變成怎麼樣，
我還是喜歡妳！

妳回來了，這才是最重要的，
變態神明和腐敗的村子，
全部都去死一死吧！

呵呵...
你變得很敢講話了呢...

但還是一樣的溫柔...
既然如此，
你願意再多抱抱我嗎？



呐：你馬上就要畢業了吧？
你還記得以前說過要把新技術引進村子，
把村子從神明的控制中拯救出來嗎？

嗯：一直都有：
但是這段日子太過安穩，
讓我有點害怕去改變它：

也是呢：
不過，其實：
我在當巫女的時候了解到，
村子裡其實也有跟我們相似的境遇，
並對這種情況感到不滿的：

如果我們回去並帶來
改變的契機的話：

這樣說不定以後的人們
就不用承受像我們一樣的命運了吧：

…是啊…
也該是時候面對了。



原來大學校園是這個樣子啊……
如果沒有被神明選上的話，
我也會在這裡學習嗎……？

是啊……說起來當初還有約定
要一起上大學呢。

……果然一直被盯著瞧呢。

這樣的身體

……都市的人其實跟鄉下一樣，
眼裡容不下不同於標準的事物。
不要介意就好。

喔呀喔呀！
這不是前輩嗎？
真是好久不見了啊！

所以？
明明在外面安安靜靜地過著
互舔傷口的日子就好了，
特地回來是想幹什麼呢？

還有這位是：
之前被前輩捨棄之後
逃離村子的敗犬大哥哥？

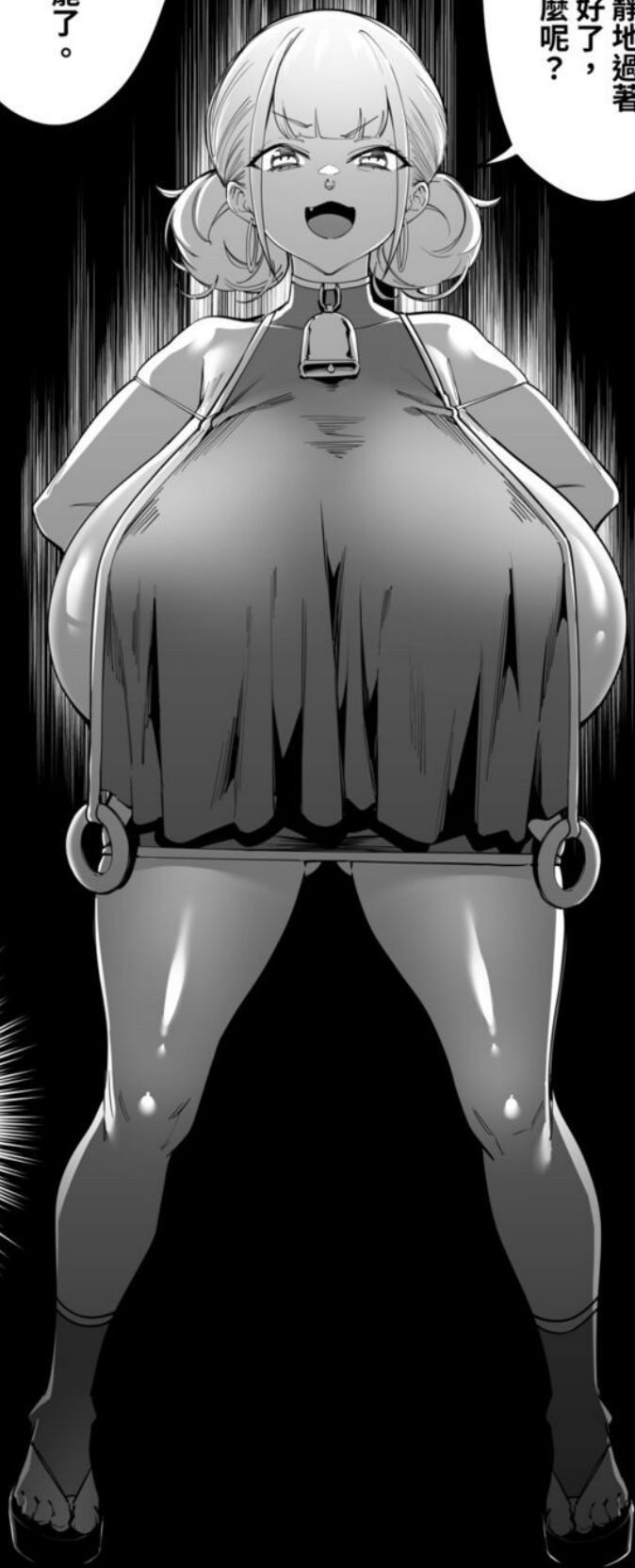
啊哈哈！
被捨棄的兩個人湊在一起，
還真是令人大開眼界了呢！

…沒什麼特別的，
只是回來運用所學幫忙家業罷了。
沒有打算鬧事。

這裡好歹是我們的家鄉，
回來並不是什麼大不了的事吧？

哼…這倒是。

沒錯…本來就不是要正面衝突…
依照原本的計畫，
讓村子一步步脫離對神明的依賴…



這種話……
騙騙這個傻瓜還行……
告訴我真實的想法。

!?

就：就像我剛才說的，
我們只是回來幫忙家裡的工作，
沒有要惹事生非的意思——

我不是在跟你說話。

我是在問你背後的那位……
前任的巫女。





不過……
既然回來的話……
就代表是這麼一回事吧……



神…神明大人!?

好重…!
站不起来了…



抱歉喔...

神明大人說祂剛好也有點膩了，
所以在我不在的期間會找一個替代者，
如果她在侍奉上做得更好，
那我不僅不能回歸巫女的身分，
還會追究離開職位的咎責。

屆時這副姿態可能就會
換作發生在我身上了吧……

結果發生了一些小插曲，
也就是這位可愛的後輩為了權力
煽動村民排擠我的事情。

但這反而增加了我的把握……

畢竟為了自身利益而
使用神明賦予的權力胡作非為，
這樣的人不可能是真心侍奉神明……

……村子裡有不少種畜，
接下來妳就去侍奉牠們吧……
不過目前這樣還不夠相配呢……

再請神明大人給妳加幾對胸部吧，
這樣就更像家畜了呢。
而且動物的射精時間很短，
也把你改造成能快速高潮的體質吧。

接下來：
我們就依照原訂的計畫，
將新技術引進村子，
為村子帶來變革吧。

……什麼？

你啊：一直以來最大的誤解就是
新與舊不能共存，
但那是因為你被仇恨蒙蔽了：真可憐呢。
對你來說，科技只是復仇的工具，
村子的革新也只是手段而已。

真正的進步，
是讓新的技術與
神明大人的力量相輔相成。

神明大人的負擔減輕之後，
巫女的工作也會減輕，
我們也能有更多相處的時間了：：
這才是讓所有人都能幸福的方式，
你不覺得嗎？

哈哈...!?

...妳自顧自地講了不少嘛...
妳想繼續那些小打小鬧的
愛情遊戲我無所謂，

但妳的身體是我的所有物，
我可不接受其他人再染指。

您太急躁了啦...
放心...我也不會再跟別人做的...
但...只是說說不會讓您滿意的吧？

剛好...也差不多要來進行
回歸後的第一次侍奉了...

我想稍微借助您的力量，
跟我的戀人玩個小小的遊戲...

...喔...?

等一下如果你看著侍奉的過程
能夠忍住不興奮起來的話，
那就是你的勝利，
我願意放手讓你離開這一切：


但如果你勃起了，
在勃起到極限的那一刻，
你會直接射精：
並持續到存量射乾為止：

那會是普通高潮所無法比擬的快感：
而你的身體會記住這種感覺：
以後只有在看著我和神明大人做愛時
才會感到興奮：而只要你因此而勃起：
就會直接射出來：♥

那樣的話，
你就再也無法進行正常的性愛了：

不過放心：到了那個時候，
你也不需要性愛了：
反正：我的身體不需要你來滿足，
而你只需要觀看侍奉就能獲得無上的快感：


呵呵：聽起來是不是很棒呢？



我終於懂了：
大概，她的內心早在第一年的時候就壞掉了。
而我曾經有兩次機會，但第一次我什麼也沒做，
另一次選擇了逃避，留下她獨自面對。
等到我終於以為自己有能力了，
想做些什麼來彌補的時候，
一切早就都已經太遲了。
而現在，她所期望的只是在這個壞掉的世界中，
能有一個跟自己一樣壞掉的人陪伴。



喔...!
竟然可以抵抗項圈的約束啊...



呵呵…
你真的…變得很有骨氣了呢。


這也是另一種選項吧…
就讓我看看這個結局吧…!!



欸……？

……

就照妳喜歡的去做好了。
抱歉：一直以來我總是這麼狡猾，
結果什麼都沒幫到妳。
這次我會一直陪伴妳到最後的。



什麼嘛：
你不只變得有骨氣了，
還變得能夠理解別人了呢。

…謝謝你。

放心吧：我的目的從來都不是
要傷害你或是報復你。

嗯…我知道。

交給我吧。
我們之後也會過得很快樂的…♥

啊……早啊。

……也不早了呢。
昨天辛苦了。

妳的頭髮……

嗯！我早上起來染的。
嘿嘿……果然還是這樣
看起來比較習慣吧？

旁邊有留了兩撮。









出...出來了...?

欸...?

對...對啦...還不是都是妳害的...
...看來效果比想像中更強...

唔...

呃...

啊...





呵呵…好可憐的樣子…
真可愛…

好像可以拿來做很多
色色的惡作劇呢…♥



























